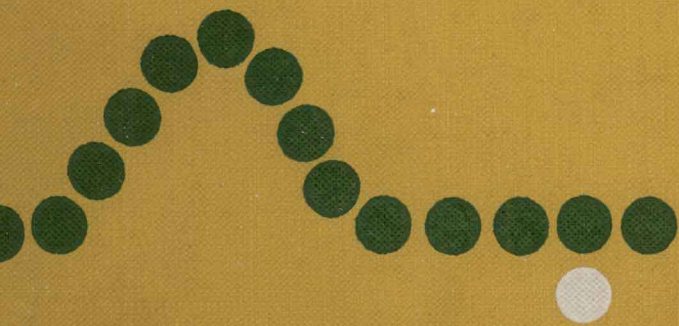


名作の研究事典



名作の研究事典

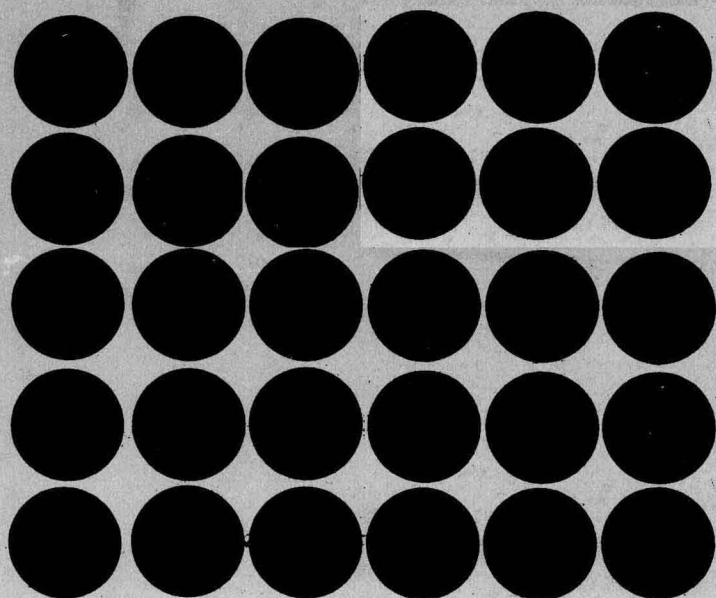
分館



名作の 研究事典

監修

坪田 譲治
中島 健蔵
村岡 花子



小峰書店

N・D・C 903

つ 坪 田 讓 治

名作の研究事典

東京 小峰書店 昭 35 (1960) 初版

B 5 判 554 頁 図版 26 cm

世界の古典名作 750 点の紹介とその研究資料

監修	坪田 讓治	中島 健蔵	村岡 花子
編集	桜井 成夫	福井 研介	瀬田 貞二
	水藤 春夫(代)	鳥越 信	大塚 勇三
執筆	安藤美紀夫	今西 祐行	大川 悦生
	上 笙 一 郎	神 戸 淳 吉	小 林 達 夫
	桜井 信夫	佐野美津男	神 宮 輝 夫
	高橋 菊江	寺 村 輝 夫	那須田 稔
	古 田 足 日	松 井 莊 也	万 沢 ま き
	村 上 芳 雄	若 月 澄 雄	

企画 高橋 博之 大石 真

整理 砂田 弘(担当) 森 田 健

昭和 35 年 5 月 30 日 印刷

昭和 35 年 6 月 10 日 初版

名作の研究事典

定価 1400 円

© 編 著 者	坪 田 讓 治
発 行 者	小 峰 広 恵
本 文 印 刷	中 教 印 刷 株 式 会 社
オ フ セ ッ ト	工 藤 印 刷 株 式 会 社
写 真 頁 印 刷	株 式 会 社 松 本 精 喜 堂 印 刷
製 本 所	有 限 会 社 文 勇 堂 製 本 工 場

発行所 株 式 会 社 小 峰 書 店

東京都新宿区四谷舟町六

電四谷(351)1858・6390

振替東京195544番

落丁・乱丁本はお取りかえします



少女アリスは「ふしぎの国」や「かがみの国」で、どんなきみょうな事件にであったでしょうか。(本文 47 ページ)



ととしゆん ぜんじん 杜子春は、仙人の教えどおり、じっとしています。とらと白蛇は一時にとびかかってきました。(本文426ページ)

まえがき

こんにち、本になっている童話や物語、あるいは小説類は、日本のもの、外国のもの、古いもの、新しいものをあげれば、それこそ大へんな数にのぼります。しかし、それらが全部、りっぱな作品だとは、もちろん申せません。いいものもあれば、わるいものもあります。

そのなかで、いつの時代に、どこの国の、どんな人が書いたにしても、そういうことにはかかわりなく、読む人びとに、なにか心の奥ふかくふれるものを与え、たえず新しい香りをはなっている作品があります。こうした作品は、こんにちだけでなく、これから先も、長く、ひろく、読みつがれていくことでしょう。このようなものを、わたしたちは、「名作」とよんでいいのだろうと思います。

しかし、こうした意味で、「名作」とよばれるものも、古今東西にわたれば、長編あり短編ありで、すべてを読みつくす、ということはどういてできることではありません。

そこで、まず、わたしたちは、これらの名作に近づく方法として、少年少女にとって必読の作品と思われるものを、ひろくえらんで集め、それぞれの内容をダイジェスト（要約）し、作者を紹介する（しょうかい）という、いわば名作案内のくわだてを考えました。

編集にあたっては、まず、大きく世界をいくつかのブロックにわけ、それぞれの国の文学史上から、とりのぞくことのできない作家の作品を第一にらえびだし、つぎに、むかしから子どもたちに親しまれ、常識（じょうしき）としてもいちおう知っておかなければならないもの、現在あまり知られていなくても、このあと読みつがれていくだろうと思われるものをえらびだしました。

世界編の項目数は約一七〇、日本編は約一三〇、巻末のさくいんを利用すれば、三七〇名、七五〇編という作品数になります。各項目のあつかい方はページ単位とし、原作の香りをそこなわないように要約し、それだけでも、たのしく読めるように記述（きじゆつ）にくふうをしました。

なお、作品の解説（かいせつ）、作者の略歴（りやくれき）、おもな邦訳（ほうやく）、作品ののっている著書などの参考らんをくわえて、いろいろな

角度からも研究できるように編集しました。

しかし、この本のダイジェストを読んだだけで、その作品のすべてがわかったような気持ちになられては、こまります。あくまで、この本は「名作への手びき」として、役立てていただきたいと思います。自分の氣にいった作品をみつけたなら、すすんで原作に接し、そこから多くのものを学びとってください。紹介している作品は、それぞれみな、くめどもつきぬ、すばらしい人生の宝庫なのですから。

したがってこの本を、ほんとうに有益なものにするかどうかは、読者であるあなたがたの、あつかい方いかんにあるということ——それを、くれぐれも念頭ねんとうにおいて、有効につかっていたいただきたいと思います。

本文中の図版のなかには、それぞれ記入の出版社の現在刊行中の本から、転載・引用てんさい・いんようさせていただいたものが、たくさんあります。なにとぞ、御了承いただきたく存じます。

なお、ご指導くださった監修の三先生はじめ、本書の執筆しゅひつに、終始しゅうし、若い情熱と深い研究をかたむけて、ご協力くださった児童文学者の諸氏に、厚く御礼申しあげます。また、小峰書店の小峰社長はじめ、編集部の方々に、いろいろとお世話になりました。心から感謝いたします。

昭和三十五年五月十五日

編集委員

大	鳥	水	瀬	福	桜
塚	越	藤	田	井	井
勇	春	貞	研	成	
三	信	夫	二	介	夫



もくじ

口 絵

「ふしぎの国のアリス」

「杜子春」

写真ページ

映画になった世界の名作……………二七

映画になった日本の名作……………三九

世界の名作

イギリスの名作

ハイギリスの児童文学……………	二
ジャックと豆の木（イギリス民話）……………	三
マザー・グース（イギリス童謡）……………	七
アーサー王物語……………	二九
ロビンソン漂流記（デフォー）……………	三
ガリバー旅行記（スウィフト）……………	三三
シェークスピア物語（ラム）……………	三
アイバンホウ（スコット）……………	三七
クリスマス・キャロルほか（ディケンズ）……………	三九
黄金の川の王さま（ラスキン）……………	四三
バラとゆびわ（サッカレー）……………	四三

水の子（キングスレイ）……………	四四
イノック・アーデン（テニスン）……………	四四
ふしぎの国のアリス（キャロル）……………	四七
フランダーズの犬（ウィーダ）……………	四七
黒馬物語（シュウエル）……………	四八
宝島（ステイブンソン）……………	五三
ロビン・フッドの愉快な冒険（バイル）……………	五五
幸福な王子（ワイルド）……………	五五
シャーロック・ホームズの冒険（ Doyle ）……………	五七
ジャングル・ブック（キップリング）……………	五九
さんご島の三少年（バランタイン）……………	六二
砂の妖精（ネスビット）……………	六三
ヒキガエルの冒険（グレアム）……………	六三
サル王子の冒険（デ・ラ・メア）……………	六四
ピーター・パン（バリー）……………	六六
世界文化史物語（ウエルズ）……………	六六
クマのプーさん（ミルン）……………	六九
勇敢な仲間（フィンガー）……………	七一
ツバメ号とアマゾン号（ランサム）……………	七三
ふくろ小路一番地（ガーネット）……………	七五
海に育つ（アームストロング）……………	七七
ムギと王さま（ファージョン）……………	七九



フランスの名作

△フランスの児童文学▽	八〇
ローランの歌	八三
きつね物語	八四
ガルガンチュア(ラブレール)	八五
寓話詩(ラ・フォンテーヌ)	八六
ペロー童話集	八八
三銃士 じゆうし ほか(デュマ)	九〇
マテオ・ファルコーネ(メリメ)	九三
学問のあるロバの話(セギュール夫人)	九五
レ・ミゼラブル(ユーゴー)	九七
最後の授業 ひょうりゅうぎ ほか(ドーデー)	九七
十五少年漂流記 ひゅうりゅうき ほか(ベルヌ)	九八
ものをいうカシの木(サンド)	一〇一
家なき子(マロー)	一〇三
首かざり(モーパッサン)	一〇四
野あそび(アナトール・フランス)	一〇五
にんじん(ルナール)	一〇六
かわいいトロット(リシュタンベルジュ)	一〇八
青い鳥(メーテルリンク)	一〇九
ジャン・クリストフ(ロマン・ロラン)	一一三
木馬 くま (フィリップ)	一二四

昆虫記こんちゅうき

昆虫記(ファーブール)	一二五
ライオンのめがね(ヴィルドラック)	一二六
チボー家のジャック(デュガール)	一二七
星の王子さま(サン・テグジュペリ)	一二九
十八番目はチボー先生(モーリヤック)	一三〇
デブの国とノッポの国(モーロワ)	一三三

ドイツの名作

△ドイツの児童文学▽	一三三
ニーベルンゲンの歌	一三六
ほら男爵 だんしゃく の冒険(ミュンヒハウゼン)	一三八
オルレアンの少女 しょうにょ ほか(シラー)	一三〇
グリム童話	一三三
影 かげ を売った男(シャミツソー)	一三六
クルミ割り人形 にんぎょう (ホフマン)	一三七
隊商 たいしょう (ハウフ)	一三八
ファウスト(ゲーテ)	一四〇
ふしぎなオルガン(レアンダー)	一四三
人形つかいのボーレ(シュトルム)	一四四
ハンネレの昇天 しやうてん (ハウプトマン)	一四六
悪童物語 あくどう (トーマ)	一四七
車輪 しやりん の下(ヘッセ)	一四九
愛の一家(ザッバー)	一五〇



ミツバチママーヤの冒険(ボンゼルス).....	一五
エミールと探偵たちほか(ケストナー).....	一五
くろんぼのペーター(ヴィーヘルト).....	一五
草原の子ら(パウマン).....	一五
水晶(シュティフター).....	一六
パンビ(ザルテン).....	一六

アメリカの名作

△アメリカの児童文学V.....	一三
リップ・ヴァン・ウィンクル(アーヴィング).....	一六
モヒカン族の最後(ターバー).....	一六
ワンダ・ブック(ホーソン).....	一七
黒猫ほか(ポー).....	一七
アンクル・トムの小屋(ストウ夫人).....	一七
若草物語(オルコット).....	一八
ケティー物語(クーリッジ).....	一八
トム・ソーヤーの冒険ほか(トウエン).....	一八
小公子ほか(バーネット).....	一九
銀のスケート靴(ドッジ夫人).....	一九
野性の呼び声(ロンドン).....	一九
ウサギどんキツネどん(ハリス).....	一九
オズの魔法使い(バウム).....	一九
赤毛のアン(モンゴメリ).....	一九

あしながおじさん(ウェブスター).....	一九
ドリトル先生アフリカゆき(ロフティング).....	一九
世界文明史物語(ヴァン・ルーン).....	一九
楊子江の少年(ルイス).....	一九
名犬ラッド(ターヒューン).....	一九
子鹿物語(ロウリングス).....	二〇
長い冬(ワイルダー).....	二〇
ウサギのラバット(ローソン).....	二〇
すてきなおじさん(セレディ).....	二〇
動物記(シートン).....	二〇

ロシア・ソビエトの名作

△ロシア・ソビエトの児童文学V.....	二〇
クルイローフ童話集.....	二一
せむしの小馬(エルショーフ).....	二二
鼻(ゴーゴリ).....	二二
大尉の娘(プーシキン).....	二二
狐人日記(ツルゲーネフ).....	二二
アフナーシエフ童話集.....	二二
イワンのばかほか(トルストイ).....	二三
カエルの旅行家(ガルシン).....	二三
かくれんぼ(ソログレーブ).....	二三
幼年時代ほか(ゴーリキー).....	二三



金時計 (バンテレエフ)	三六
石の花 (バジヨーフ)	三〇
人間の歴史 (イリオン)	三一
チムール少年隊 (ガイダール)	三三
森は生きている (マルシャーク)	三三
若き親衛隊 (ファジェーエフ)	三五
小ネズミのピーク (ビアンキ)	三七
町からきた少女 (ヴォロンコワ)	三九
ヴィーチャと学校友だち (ノースフ)	四〇
ワシヨークと仲間たち (オセーエワ)	四二

北欧の名作

△北欧の児童文学V	四四
アンデルセン童話集	四七
日向丘の少女 (ビョルンソン)	五二
大きな石ぶるい (ストリンデベリイ)	五三
ニールスのふしぎな旅 (ラーゲルレーブ)	五四
ノンニの冒険 (スウェンソン)	五五
名探偵カッレくん (リンドグレン)	五六
小さい牛追いはか (ハムズン)	五六
星のひとみ (トベリウス)	五八

南欧・東欧の名作

△南欧・東欧の児童文学V	六二
ピノッキオ (コロディ)	六五
クオレ (アミーチス)	六七
チポリーノの冒険 (ロダリー)	六七
ドン・キホーテ (セルバンテス)	七一
スイスのロビンソン (ウィース)	七三
ハイジ (スピリ)	七五
郵便屋さんの話 (チャベック)	七七
パール街の少年たち (モルナール)	七九

東洋の名作

△東洋の文学V	八二
ジャータカ物語	八五
郵便局 (タゴール)	八七
父が子に語る世界歴史 (ネール)	八八
中国の神話・伝説	八九
唐詩選	九〇
水滸伝 (施耐庵)	九三
三国志 (羅貫中)	九五
西遊記 (吳承恩)	九七
聊斎志異 (蒲松齡)	九九
故郷 (魯迅)	一〇〇
かがし (葉紹鈞)	一〇三



ツバメの大旅行(秦兆陽)	三〇四
タオ・チーの夏休み日記(謝冰心)	三〇五
宝のひょうたん(張天翼)	三〇六
朝鮮の神話・伝説・民話	三〇七
朝鮮の童謡	三〇八

世界の古典

△世界の古典▽	三〇九
ギリシア神話	三一
イリアスほか(ホメロス)	三四
イソップ物語	三六
聖書物語	三九
アラビアン・ナイト	三三

日本の名作

日本の古典

△日本の古典について▽	三三
古事記	三三
万葉集	三六
竹取物語	三四
枕草子(清少納言)	三四
源氏物語(紫式部)	三四
今昔物語	三四

古今・新古今和歌集	三〇四
保元・平治物語	三〇七
平家物語	三〇八
義経記	三〇九
徒然草(吉田兼好)	三一〇
謡曲・狂言	三一
お伽草子	三二
奥の細道(松尾芭蕉)	三三
西鶴諸国咄(井原西鶴)	三三
国姓爺合戦(近松門左衛門)	三三
雨月物語(上田秋成)	三三
東海道中膝栗毛(十返舎一九)	三三
南総里見八犬伝(滝沢馬琴)	三三
歌舞伎物語	三三
日本の民話	三三
和歌・俳句・川柳	三三

現代日本の名作

△日本児童文学の歴史▽	三三
△近代日本の文学について▽	三三
耳なし芳一の話(小泉八雲)	三七
山椒大夫ほか(森鷗外)	三七
平凡(二葉亭四迷)	三七



坊っちゃん(夏目漱石).....	三六〇
思い出の記(徳富蘆花).....	三六一
こがね丸ほか(巖谷小波).....	三六二
山の力ほか(国木田独步).....	三六四
たけくらべ(樋口一葉).....	三六五
幼きものにほか(島崎藤村).....	三六六
あゝ玉杯に花うけてほか(佐藤紅緑).....	三六八
こども風土記ほか(柳田国男).....	三六九
一房の葡萄ほか(有島武郎).....	三七一
科学者とあたま(寺田寅彦).....	三七三
古事記物語ほか(鈴木三重吉).....	三七四
赤いろうそくと人魚ほか(小川未明).....	三七七
良寛坊物語ほか(相馬御風).....	三八二
太陽の花園ほか(秋田雨雀).....	三八二
清兵衛とひょうたんほか(志賀直哉).....	三八三
ふたりの少年と琴(楠山正雄).....	三八五
次郎物語(下村湖人).....	三八六
鉄の靴(山村暮鳥).....	三八八
甚兵衛さんとフラスコほか(相馬泰三).....	四一九
むよくの清八ほか(土田耕平).....	四二〇
銀の匙(中勘助).....	四二二
盲目と聾者ほか(武者小路実篤).....	四二三
沈んだ鐘ほか(吉田絃二郎).....	四三三

ある日の鬼ガ島ほか(江口渙).....	四四四
路傍の石(山本有三).....	四四五
三人兄弟(菊池寛).....	四四七
天下一の馬ほか(豊島与志雄).....	四四八
風の中の子供ほか(坪田譲治).....	四四〇
春を告げる鳥ほか(宇野浩二).....	四四四
くもの糸ほか(芥川竜之介).....	四四六
蝗の大旅行ほか(佐藤春夫).....	四四八
虎ちゃんの日記ほか(千葉省三).....	四四〇
ピオの話ほか(藤森成吉).....	四四二
新州天馬俠ほか(吉川英治).....	四四三
むく鳥の夢ほか(浜田広介).....	四四四
春の童謡(長谷健).....	四四七
サランガのぼうけん(吉田甲子太郎).....	四四六
生きている山脈(打木村治).....	四四九
汽車のばあの話ほか(北川千代).....	四四〇
雪むすめほか(酒井朝彦).....	四四二
たらいほか(塚原健二郎).....	四四三
建設列車ほか(木内高音).....	四四三
風の又三郎ほか(宮沢賢治).....	四四四
花物語(吉屋信子).....	四四八
三太物語ほか(青木茂).....	四四九
コタンの口笛(石森延男).....	四五一



ゆるい船ほか(大仏次郎).....	四三
栗ひろい週間ほか(榎本楠郎).....	四四
しびれ池のカモ(井伏鱒二).....	四五
町子ほか(徳永直).....	四六
級長の探偵(川端康成).....	四七
君たちはどう生きるか(吉野源三郎).....	四八
二十四の瞳ほか(壺井栄).....	四九
太陽をかこむ子どもたちほか(川崎大治).....	五〇
夜あけ朝あけ(住井すえ).....	五一
おばあさんの村ほか(中野重治).....	五二
新聞小僧(阿部知二).....	五三
あくたれ童子ボコ(北畠八穂).....	五四
ビルマの堅琴(竹山道雄).....	五五
狐物語ほか(林芙美子).....	五六
玉虫のずしの物語ほか(平塚武二).....	五七
希望の百円さつほか(猪野省三).....	五八
ぼくとさるほか(佐藤義美).....	五九
栗野岳の主(棕鳩十).....	六〇
十二のきりかぶほか(与田準一).....	六一
ノンちゃん雲に乗るほか(石井桃子).....	六二
サル3びきの物語ほか(奈街三郎).....	六三
鉄の町の少年(国分一太郎).....	六四
北国の犬(関英雄).....	六五

ごんぎつねほか(新美南吉).....	四二
ラクダイ横丁ほか(岡本良雄).....	四三
大河原三郎右衛門ほか(下畑卓).....	四四
風ぐるま(太田博也).....	四五
おしくらまんじゅう(筒井敬介).....	四六
綴方教室(豊田正子).....	四七
ながいながいペンギンの話(いぬい・とみこ).....	四八
.....	四九
日本の児童劇の歴史V.....	五〇
烏帽子折とさるのむれ(坪内逍遙).....	五一
北風のくれたテーブルかけほか.....	五二
.....(久保田万太郎).....	五三
三つの願い(小山内薫).....	五四
子ぎつねほか(斎田喬).....	五五
金の十字架ほか(永井麟太郎).....	五六
学校図書館ほか(落合聰三郎).....	五七
ふるさとの英世ほか(宮津博).....	五八
王女さまとこじき(阿貴良二).....	五九
彦一ばなしほか(木下順二).....	六〇
さよならローバトほか(富田博之).....	六一

